

# 質 問 書

2024 年 6 月 28 日

「ペルー国リマ・カヤオ首都圏において公共交通シフトがもたらす気候変動緩和効果に係る情報収集・確認調査(公共交通システムの検討)(QCBS-ランプサム型)」

(公示日:2024 年 6 月 19 日/調達管理番号::24a00284)について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	p. 12 第 2 章 特記仕様書 案 第 1 条 調査の背景・経緯 (3) 他の援助機関の対応	2023 年の米州開発銀行によるプロジェクトについては、IDB のホームページを含めて、インターネット上で情報が見当たりません。関連資料がありましたら配布していただけないでしょうか。	・以下に記載があります。 <a href="https://www.iadb.org/publications/english/publication/Proposals-for-Implementing-Transit-Oriented-Development-in-Lima">Proposals for Implementing Transit-Oriented Development in Lima (iadb.org)</a>
2	p. 13 第 2 章 特記仕様書 案 第 3 条 調査実施の留意事項 (1) 調査方針	気候変動緩和効果の検討との連携の必要性が記載されていますが、いつまでに、どのようなデータを提供する必要がありますかご提示いただくことは可能でしょうか。それによって、調査全体のスケジュールが規定されてくると思われます。	・「気候変動緩和効果の検討との連携」については、本調査および「調査その2」としている「ペルー国リマ・カヤオ首都圏において公共交通シフトがもたらす気候変動緩和効果に係る情報収集・確認調査(気候変動緩和効果の検討)(QCBS-ランプサム型)」の担当団員間での定期的な進捗報告を想定しています。 ・現時点で具体的なデータ名を提示することは考えておりません。JICA においてはペルーでの交通分野の気候変動緩和策に関する情報の集積がないため、「調査その2」にて情報収集を行うとともに、現状を踏まえた上で、気候変動緩和策の

			効果算定手法の提案を行います。よって、現時点で本調査より提出を行わないと上記調査の進捗に対して重大な影響が及ぶ調査データおよび検討事項はないと考えております。
3	p. 14 第2章 特記仕様書案 第3条 調査実施の留意事項 (5) 交通需要予測モデル (MTRES2023)	このモデルを操作するためには TransCAD というソフトウェアが必要になると認識していますが、それはこの調査の中で購入して先方政府に供与することを想定していますか。すなわち、一般業務費の中を含める事は可能でしょうか。また、それは本見積の中になるでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TransCAD9.0 は先方政府が保有し、使用しているソフトウェアとなります。</li> <li>・MTRES2023 の操作は ATU が保有する TransCAD9.0 を用いて行うことを想定しており、本調査で新たな購入を行うことは想定しておりません。</li> </ul>
4	P16-17 第2章 特記仕様書案 第3条 調査実施の留意事項 (8) 本調査成果の公共交通マスタープランへの活用 英文の①～⑦	英語で記載された内容は、本調査以降に実施予定の公共交通マスタープランにおけるアウトプットであり、本調査のアウトプットではないと理解して良いでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご理解のとおりです。</li> </ul>
5	p. 17 第2章 特記仕様書案 第3条 調査実施の留意事項 (8) 本調査成果の公共交通マスターブ	低排出ガス地帯の導入、電子道路課金、Active Mobility、駐車規制、バスの走行速度向上策、ITS などの具体的な施策を提案することになっていますが、定量的な効果算定 (CO2 排出量の削減量) までが求められているのでしょうか。第4条の調査の内容では代替案の提案まで、あるいは予算が不足する場合にはこの部分を外す可能性もあることが記載されており、検討レベルの精度が不明です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本調査では定量的な効果算定 (CO2 排出量の削減量) まででは求めておりません。p16-17 に記載の①～⑦は ATU が作成する公共交通マスタープランの主要なアウトプットとして現時点で想定される項目となります。</li> </ul>

	ランへの活用⑤～⑦		
6	p. 18 第2章 特記仕様書案 第4条 調査の内容 (1) 公共交通システムの検討⑥	2024年に公開される国政調査データをもとに、将来の経済・社会フレームを更新するとありますが、このデータの公表が遅れたり、精度的に使えなかったりといった事態となった際にはスケジュールを見直すことになりますか。あるいは、このデータなしで作業を進めることになりますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールの見直しは想定しておりません。</li> <li>・新たな国勢調査データが入手できない場合には、基本的には過年度データ等、既存データで作業を進めることを想定しておりますが、具体的な状況に応じて対応策を受注者と発注者間で協議し、決定してまいります。</li> </ul>
7	p. 18 第2章 特記仕様書案 第4条 調査の内容 (1) 公共交通システムの検討⑦	ここではプロジェクトがない場合の需要予測を行うことになっています。気候変動緩和効果を計測するためにはプロジェクトを実施した場合の需要予測も必要になると思いますが、それは⑩に含まれているという理解でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本調査では対策案の定量的な効果算定(CO2排出量の削減量)までは求めておりません。対策代替案の事業効果を検討し最も望ましい代替案を選定するのはATUが作成するマスタープランでの作業と考えております。</li> </ul>
8	p. 18 第2章 特記仕様書案 第4条 調査の内容 (2) ATUの組織分析	「受注者は、実施機関の協力を得て」とありますが、具体的にはどのような協力が得られるのでしょうか。実施機関がこれらのデータを所有しているということでしょうか。それとも対象となる都市の担当者を紹介いただき、受注者がオンライン会議等でこれらの情報を収集・分析するというのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「受注者は、実施機関の協力を得て」については、その対象を組織分析に係るものを想定しています。</li> <li>・p18(2)ATUの組織分析6行目、「また、その際に、上述(1)③ベンチマークスタディを行う中南米の2都市あるいは3都市(現時点でサンチャゴ、ボゴタ、メデジン)を想定している」と比較対照して、<u>それぞれの都市のシステムの特徴</u>を分析・整理する。」は「また、その際に、上述(1)③ベンチマークスタディを行う中南米の2都市あるいは3都市(現時点でサンチャゴ、ボゴタ、メデジ</li> </ul>

			<p>ンを想定している)と比較対照して、<b>ATU の組織</b>の特徴を分析・整理する。」に修正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチマークの対象都市については現時点でサンチャゴ、ボゴタ、メデジンを想定しておりますが、実施機関の意向を踏まえつつ、受注者と発注者間で協議を行い、これを決定いたします。</li> </ul>
9	<p>p. 19 第2章 特記仕様書 案 第5条 成果品等</p>	<p>業務計画書、ファイナル・レポート以外は英語と西語の提出が求められていますが、英語版を作成する意味はあるでしょうか。日本語の方が作成時間やチェック時間の上で便利かと思いますが、いかがでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本業務で作成・提出される報告書等については他ドナー等の第三者への発信・共有を想定しており、英語版の作成としています。</li> </ul>
10	<p>P21 別紙 “プロポーザルにて特に具体的な提案を求める事項” 表 No.3 フィーダーネットワークの検討の方法論</p>	<p>「フィーダーネットワークの検討」とは、P16 に記載の英文の②に該当する業務でしょうか。この場合、(model areas are to be identified in the course of the PMU)とあるように、何箇所かにおけるモデル地区における検討と理解して良いでしょうか。</p> <p>また、上記質問と関連しますが、P16 の②が本調査以降に実施する公共交通マスタープランのアウトプットという理解であり、本調査のアウトプットではないと理解して良いでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご理解のとおりです。</li> <li>・ご理解のとおりです。</li> </ul>

以上